



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第53回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 グラウンドへの敬意と感謝

試合中、前のイニングで最終打者だった投手が守備につく時に、控え選手がグラブとともに給水を持ってきました。ところが、飲み残した水を投手がグラウンドに捨てているのは、見ていても感心しません。

試合前の攻守交代決定時に、審判員から、テンポの良い試合運行への協力をお願いしていますが、そこでは、控え選手にグラブ、手袋の受け渡し・回収とともに、給水の準備等もお願いしています。特にこれから蒸し暑い気候となり、給水は重要です。しかし飲み残した水を、選手あるいは控え選手がグラウンドに捨てる状況を目にすることがあります。昨今、練習試合でも5回終了時にグラウンド整備が入り、終了時にはビジターチームの選手がホームチームの選手にグラウンド整備の感謝を述べている姿を目にします。試合や練習終了後にグラウンド整備をしないチームはないはずですね。グラウンドは選手諸君にとって、とても大切な場所だと思っているからそうするわけです。その気持ちが本当ならば、自ずと飲み残しの水を捨てることはないはず。また、飲み残しが出ても持ち運びがしやすい道具を活用しているチームもあります。グラウンドへの敬意と感謝の気持ちを大切にしてほしいものです。

ルール編 塁上の臨時代走者に打順が回ってきた時の措置は?

高校野球には打席でヒット・バイ・ピッチ(死球)を受けた選手に対して、出場選手の中から臨時に代走が送られますが、これは投手と捕手以外で、走者に出ていない一番打順の遠い選手が務めることになっているのですが、それだと臨時代走に出た選手がまだ塁上にいるときに、その選手に打順が回ってくる可能性があるのではないのでしょうか。そんな場合はどうするのですか?

高校野球特別規則6には、臨時代走者について以下のように規定しています。

試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断したときは、相手チームに事情を説明し、臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。

・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。

・臨時代走者に替えて別の代走を送ることはできる。この場合、負傷した選手に代走が起用されたことになり、負傷選手は以後出場できない。

(1) 打者が死球などで負傷した場合

投手と捕手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。

(2) 塁上の走者が負傷した場合

投手と捕手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。

さて、実際に起きた事案ですが、頭部にヒット・バイ・ピッチ(死球)を受けた打者に臨時代走者を送ったのですが、塁上の臨時代走者に打順が回ってきました。

その時は、投手と捕手を除いた選手のうち、**打撃を完了した直後の選手を送り、塁上にいた臨時代走者を戻し、打撃準備の時間をとった処置をとった**そうです。

稀なケースですが、投手と捕手を除くために起こり得ますので、皆さんでもこういったケースで起こり得るのか、一度考えてみてください。次号でももう少し詳しくご説明します。